

第 338 回金沢眼科集談会 プログラム

日時 平成 28 年 12 月 18 日 (日) 13:00~16:30

会場 金沢ニューグランドホテル 4F 金扇の間

〒920-8688 金沢市南町 4-1 電話:076-233-1311

連絡先:〒920-8641 金沢市宝町 13-1

金沢大学眼科学教室

電話 (076)265-2403 FAX (076)222-9660

ご案内図



- ・ 参加費は 2,000 円です。
- ・ **集談会終了後、懇親会(会費無料)**を予定しております。
- ・ 本学会は専門医制度生涯教育事業 (No.59003)として認定されています。
- ・ デジタルプレゼンテーションに限ります。デジタルプレゼンテーション用にプロジェクターを一台用意します。パソコンはご自身のものをお持ち下さい。
- ・ 「眼科臨床紀要」に掲載しますので演者は抄録(400 字以内)をデータ形式にてご提出下さい。

共催:金沢眼科集談会 参天製薬株式会社

— 次回ご案内 —

平成 29 年 4 月 16 日(日)の予定です。

一般講演

(13 : 00～13 : 30) 座長 ^{うえだともこ} コンソルボ上田朋子 先生 (富山大)

1. 眼科外来で行う塗抹顕微鏡検査

^{すけがわとしゆき}
○助川俊之 (加賀市医療センター)

2. アクリル眼内レンズにおける5年成績

^{みたのりひろ}
○三田哲大、佐々木麻衣、高橋依子、関 祐介、岡本綾子、柴田哲平、柴田伸亮、
久保江理、佐々木洋(金沢医大)

(13 : 30～14 : 00) 座長 ^{ひろせまき} 広瀬真希 先生 (福井大)

3. 隣頭部癌の化学療法中に両側の視神経炎を生じた1例

^{たかつじじゆり}
○高辻樹理、八田裕貴子、山田成明、中村桂子、高橋良一 (富山県立中央病院)

4. 0.05%ジフルプレドナート点眼薬使用による網膜光凝固術後の炎症性サイトカイン抑制について

^{かきもとひろし}
○柿本宙志、高村佳弘、有村尚悟、三宅誠司、松村健大、後沢 誠、岩崎健太郎、
稲谷 大 (福井大)

(14 : 00～14 : 45) 座長 ^{しばたしんすけ} 柴田伸亮 先生 (金沢医大)

5. 内境界膜自家移植に用いる新しい手術器具について

^{わかばやしけんじ}
○若林謙二 (若林眼科)、永岡 卓、木下太賀、産賀 真、昌原英隆、
前野貴俊 (東邦大・佐倉)

6. 血管内皮機能障害と加齢黄斑変性に対する抗 V E G F 薬の投与頻度

うえだともこ
○コンソルボ上田朋子、尾崎真由美、中村友子、矢合隆昭、柳沢秀一郎、阿部慎也、
林 篤志（富山大）

7. 当院での抗 VEGF 療法の現状

ふじむらしげと
○藤村茂人、竹本大輔、杉山和久（金沢大）

特別講演

すぎやま かずひさ
座長 杉山 和久（金沢大）

（14：45～15：30）

「落屑症候群の遺伝子異常—新たな展開—」

おざき みねお
尾崎眼科 院長 尾崎 峯生 先生

（15：30～16：30）

「Current Understanding and Management of Angle Closure Glaucoma」

Singapore National Eye Centre 教授 Tin AUNG 先生

「落屑症候群の遺伝子異常—新たな展開—」

尾崎眼科 院長 尾崎 峯生 先生

落屑症候群 (XFS) に関連する一塩基多型 (SNP) が Lysyl oxidase-like 1 (LOXL1) 内に発見されたが、リスクアレルが人種によって異なるなどその遺伝的機序は複雑であると考えられた。このため日本落屑症候群コンソーシアムは、Tin Aung 教授らシンガポール国立眼科センターと共同して国内の 19 施設から収集された日本人 XFS 1,484 例および対照 1,188 例に対し GWAS を施行し、さらに 17 カ国から得られた XFS 6,901 例および対照 20,727 例の DNA サンプルを検討した。

その結果 LOXL1 内の rs4886776 が従来報告された SNP を超えて最も強く XFS と関連していた ($OR=9.87$, $P=2.13 \times 10^{-217}$)。さらに CACNA1A 内の rs4926244 が LOXL1 以外では初めてゲノムワイド有意に XFS と関連し、疾患感受性を高めることが確認された ($OR=1.16$, $P=3.36 \times 10^{-11}$)。

CACNA1A はカルシウムチャネルに関係しており、落屑物質の生成に関与している可能性がある。

XFS の複雑な疾患メカニズムを解明するためにはさらに多数例において GWAS を行う必要があると考えられたため、シンガポール国立眼科センター Tin Aung 教授らは日本落屑症候群コンソーシアムを始め、世界 27 ヶ国のサンプル、落屑症候群／落屑緑内障 11,751 例、正常対照 105,096 例に対して GWAS を施行し、4 つの新しい遺伝子を見い出した。これらを踏まえて、落屑症候群の遺伝子異常について解説する。

「Current Understanding and Management of Angle Closure Glaucoma」

Singapore National Eye Centre 教授 Tin AUNG 先生

Objective: To review recent advancements in our understanding of angle closure glaucoma (ACG) and review current management of this disease.

Results: ACG is major cause of blindness. Recent advances in imaging have led to the identification of novel risk factors for ACG and have improved our understanding of ACG risk and population screening. Several novel genes for ACG have also been recently identified, which may lead to new insights on possible mechanisms explaining the pathogenesis of ACG. Recent studies on management and treatments have led to new thinking on disease management particularly with respect to the role of lens extraction and laser treatment (iridotomy, SLT and iridoplasty) for patients with ACG.

Conclusions: Recent advances in ACG research have enhanced our understanding of ACG, and have changed our management of the disease.